

基本情報

中学校数	4校
対象学校	4校
実施教室数	2教室
対象学年	1～3学年
開催日数 (1教室平均)	17日
参加人数 (1教室あたりの 1日平均)	11人
活動場所	北本市文化センター 北本市東部公民館
ボランティア数	9人
ボランティアの属性	教員OB 地域住民

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

コーディネーター 2名 (0名)

サタデースクール

活動内容

- 市内の全中学校1～3年生の希望者を対象とし、北本市文化センター及び東部公民館を会場に6月から2月にかけて土曜日に実施した。
- 英語、数学の基礎的・基本的な内容を中心として学習支援を行った。
- 市教育委員会で準備したテキストや入試対策問題集等を活用し、個別学習・個別指導を主として実施した。

実施にあたっての工夫

- 申込時に市教育委員会から保護者へ直接説明する機会を設け、学習内容や安全面に関する確認等をしている。
- 生徒が参加しやすい環境及び安全に通える環境を整えるため、開始時刻を15時としている。
- 基礎・基本の定着を図るため、県作成の「学力向上ワークシート」や入試対策の問題集を活用している。
- 個に応じた支援充実のため、学習支援員を複数配置している。
- コーディネーター及び学習支援員は毎回打ち合わせを実施し、学習内容の確認や参加生徒の学習状況等について情報共有を行っている。



成果

- コーディネーター及び学習支援員が密に連携を図ることで、参加生徒に対して個に応じたきめ細やかな学習支援を行うことができた。
- 参加生徒の意識調査では、「学習内容」について「よく理解することができた」58%、「理解することができた」25%との結果であった。また、参加してよかったと回答した生徒については、100%と満足度が高かった。参加してよかった理由としては、「自分の学習に集中できた」「家で勉強するよりやる気がわいた」等があった。
- 参加生徒の感想としては、以下のようなものがあった。
「家ではあまり集中して勉強できないことが多かったので、集中できる場と教えてくれる場があって助かった。」
「分からなかったところが少しずつ分かるようになり、前より解ける問題が増えた。」

基本情報

中学校数	2校
対象学校	2校
実施教室数	2教室
対象学年	1～2学年
開催日数 (1教室平均)	20日
参加人数 (1教室あたりの 1日平均)	15人
活動場所	各中学校教室
ボランティア数	19人
ボランティアの属性	大学生 元教員

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

コーディネーター 2名(0名)

毛呂山町・学力アップ教室（夢はぐくみ塾）

活動内容

- 町内中学1～2年生を対象に部活のない木曜日、年間15日間と夏休み期間中に5日間の学習支援を実施している。
- 実施場所は町内2中学校で学校ごとに設置し、学力向上支援員や地元大学生の協力を得て実施している。
- 学習する内容は、動画学習教材やテキストを活用して自主学習につながる勉強の仕方を教えている。

実施にあたっての工夫

- 開催場所は各校に設置することで生徒が通いやすい環境を実現した。
- 保護者あてに案内LINEを送信して、オンライン申請により申し込みを行うことで事務の効率化を図った。
- 英語については、参加者が楽しく英語を使ってコミュニケーションできるようなプログラムを大学生に考案してもらい、世界各国の国旗のデザインと意味について学びその知識をもとに架空の国旗を制作、最後に発表し英語で共有するなど充実した授業が実施できた。
- YouTubeの学習動画を活用することで、学力アップ教室だけではなく、自宅においても自分で学習が進められるよう工夫した。また、学力アップ教室では主に数学の学習であるが、他の教科の動画も紹介することで、家庭学習の充実を図ることができる。



学習動画を活用した学習

成果

- 参加生徒のアンケートから、「とても役に立った」、「どちらかという役に立った」という前向きな回答が90%以上と高い水準となった。
- 学力アップ教室に参加した生徒の感想として、「テストの点数が上がった」「勉強ができるようになった」「集中して勉強できた」など参加したことで、学力向上につながるきっかけとなっている。

基本情報

中学校数	16校
対象学校	16校
実施教室数	16教室
対象学年	1～3学年
開催日数 (1教室平均)	15日
参加人数 (1教室あたりの 1日平均)	14人
活動場所	市内中学校
ボランティア数	44名
ボランティアの属性	元教員 大学生 等

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

コーディネーター 16名(0名)

新くまなびスクール（放課後の部）

活動内容

- 市内全ての中学生に参加を呼びかけ、参加を希望した生徒を対象に、4月～翌2月で週1回程度（1回2時間）学習支援を実施している。
- 実施場所は、市内の中学校（16校）を会場に、年間で平均15回程度、実施した。
- 教員OBや教員免許状所有者、学生等の会計年度補助職員による、生徒一人一人に対するきめ細かな指導を通して、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図った。
- 学習形態は国語、数学、英語を中心とした自学自習形式で行った。

実施にあたっての工夫

- 会場を各中学校に設置することで生徒が通いやすい環境を実現した。また、実施日については各中学校が設定することにより、学校の実情に応じた運営ができた。
- 年度当初に開講式を行い、約束事や注意事項などを参加者へ伝えている。
- 学習支援員との連絡調整を密に図り、一人一人の状況や成果、課題を共有した。
- 11月に補助職員とコーディネーターの合同の研修会を行い、運営についての情報共有等を行った。
- 市内の全生徒に配付してある「熊谷市学力向上テキスト」（熊谷市教育委員会作成）を教材として活用した。



〔学力向上テキスト〕



成果

- 学習支援員と連絡調整を密にとることにより、生徒一人一人のさらなる実態把握に繋がった。
- R7新くまなびスクール生徒質問紙（開始・終了時調査）より
Q 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。
【していると答えた生徒】（開始）66% → （終了）69%

基本情報

中学校数	8校
対象学校	8校
実施教室数	2教室
対象学年	1～3学年
開催日数 (1教室平均)	6日
参加人数 (1教室あたりの 1日平均)	12人
活動場所	公共施設
ボランティア数	9人
ボランティアの属性	教職員OB 高校生 地域住民

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

コーディネーター 2名(0名)

秩父市 チチブ・アフターナイトスクール～夜勉～

活動内容

- 市内中学1～3年生を対象に10月～12月で全6回実施した。今年度も英語の学力向上に向けて、学習支援を行った。
- 英検の級を基準に習熟度に応じて2つの教室に分けて実施した。
- コーディネーターが作成したプリントや市販のテキストを使用し、講義形式・自主学习形式で実施した。1回の講座時間は1時間30分(18時30分～20時)とした。

実施にあたっての工夫

- 事前に参加者の保護者や学習支援サポーターにメールアドレス等を登録いただき、講座に関する内容についてメールでの連絡を中心に据えるなど、連絡体制の整備を行った。
- 講座準備の段階からコーディネーターとの連絡調整を密に図り、講座の趣旨を共有するとともに、各回の講座の成果や、課題を踏まえた打合せをするなど、講座内容の充実を図った。
- 学習支援サポーターと参加者への支援内容について共有し、効果的な学習支援が行えるようにした。
- 英語に関する知識のみならず、自主学习の方法等の指導をとおして、「自律した学習者」の育成に取り組んだ。
- 6回の講座終了後、希望者には同施設を準会場に英語検定を実施した。学習の成果を実感できるよう、講座と検定を一連の事業として実施した。



〔5級教室〕

成果

- 参加生徒のアンケート調査から、「講座はわかりやすかった」「この活動を通して、これからも英語学習を頑張ろうという気持ちや目標をもつことができた」との回答がいずれも約90%以上と高い水準となった。
- 参加生徒の感想として「講座をとおして、英語の勉強法を知り、以前よりも英語の学習をすることが増え、英語の力を伸ばすことができたのでよかったです。」といった肯定的なものがあつた。

基本情報

中学校数	10校
対象学校	10校
実施教室数	10教室
対象学年	全学年
開催日数 (1教室平均)	90日
参加人数 (1教室あたりの 1日平均)	15人
活動場所	各中学校教室
ボランティア数	10人
ボランティアの属性	教員OB 教員免許取得者 大学生

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

配置なし

ステップアップレッスン

活動内容

- 学習に対して不安を持っている生徒や、更に自分の力を伸ばしていきたいと思っている生徒を対象に、国語・数学・英語を中心に補習学習を実施した。特に、基礎的・基本的な学習内容の定着に重点を置き、プリント学習を中心としながら実施した。
- 週に2回の実施を基本として、学校の実態に応じながら、曜日や実施学年を工夫して取り組んだ。

実施にあたっての工夫

- 実施計画は中学校学習支援員が中心となって決めている。また、夏休み、冬休み等の長期休業中には、実施日を集中させたり、午前と午後の2回開催にしたりして、生徒の参加を促した。
- 一人一人の課題に応じた個別指導を中心に学習支援に努めた。間違えたところや分からないところを解決・理解することができるように、一人一人の理解の実態にあわせて学習を進めた。3年生の受講者に対しては、高校入試も見据えて、入試までの残り期間に応じて学習内容を工夫して実施した。
- 各学年の授業の進度に合わせ学習内容を工夫し、授業の復習や次時の授業に生かせるようにした。
- 学習プリントを事前に用意し、その問題を解き、解答をもとに自己採点させ、誤り等を確認し、指導者に質問したり、相互に教え合いをしたりして、理解を深めることができるようにした。
- 3年生は、高校入試を見据えて、冊子にした問題集や各自が用意した教材・課題をもとに自主的に学習に取り組むこともあった。2学期後半からは、指導者も公立高校入試に向けて学習プリントの準備をして、学習を進めた。



成果

- ステップアップレッスンを通じて、一人一人の基礎学力の定着と学ぶ意欲の向上が成果として現れた。
- 参加している生徒は、学習に対して積極的に取り組めた。
- 令和7年度の事業のまとめにおける生徒アンケートでは、ステップアップレッスンに参加したことについて、「とても良かった」「良かった」と答えた生徒の割合は、90.6%と、充実感を得ている。

基本情報

中学校数	1校
対象学校	1校
実施教室数	1教室
対象学年	3学年
開催日数 (1教室平均)	10日
参加人数 (1教室あたりの 1日平均)	14人
活動場所	中央公民館
ボランティア数	2名
ボランティアの属性	外部講師

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

コーディネーター 1名(0名)

チャレンジ土曜セミナー

活動内容

- 中学3年生を対象に11月から2月までの土曜日に10回、各回2時間程度学習支援を実施した。
- 実施場所は、中学校近くの公民館で実施した。
- 学習する内容は、基礎問題（数学・英語）を中心としたテキストを用いたほか、生徒の進捗にあわせ発展問題を掲載したプリントを使用して学んだ。

実施にあたっての工夫

- 開催場所を中学校近くの中央公民館とすることで、生徒が自力で通室できる環境を実現した。
- 全体指導で基礎的な内容の確認を行い、指導者2名が机間指導を行うことで、個別に質問できる時間を設けた。
- 指導者は、入退室時や休憩中に生徒と簡単な英語でのコミュニケーションをとるなど、学習時間以外においても積極的に交流を図るほか、反復学習の重要性を指導し、学習への意識改善を促した。
- 基礎問題を重点的に学ぶことで、一人一人の基礎的内容の理解を深め、自力で回答を導き出す達成感を体験することにより、学習への苦手意識を軽減するきっかけづくりとなるよう努めた。
- 生徒の進捗にあわせて教材を用意し、学力およびさらなる学習意欲の向上を図った。



成果

- 個別指導で解決に向けた支援を行うことで、一人一人の習熟度に合わせた指導ができた。
- 参加生徒の感想として、わからないところがあるとわかりやすく教えてもらえて質問もやすく学習意欲が湧いたなど、生徒の出席率もよく学習意欲の向上が見られた。

基本情報

中学校数	1校
対象学校	1校
実施教室数	7教室
対象学年	1～3学年
開催日数 (1教室平均)	12回
参加人数 (1教室あたりの 1日平均)	10人
活動場所	小鹿野文化センター
ボランティア数	12人
ボランティアの属性	塾講師 教員OB

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

コーディネーター 1名(0名)

小鹿野町・中学生未来塾

活動内容

- 中学1年生から3年生を対象に、5月から2月の土曜日に月2回程度、民間の外部講師や教員OBにより英語、国語、数学の学習講座を実施している。
- 1クラスを少人数で編成して、生徒一人一人に向き合ったきめ細やかな学習指導を行っている。

実施にあたっての工夫

- 英語、国語、数学の3教科とも、それぞれ学年ごとに①基礎・基本コース②応用・発展コースの2コースに分かれて実施している。学習内容の難しい3学年は、3教科とも基礎・基本コースを2クラスに分けて実施している。生徒個々の学習進度に合わせて、少人数できめ細やかな指導を行っている。(習熟度別指導・個に寄り添った指導)
- 教員OBの他に地元の講師にも協力を頂き、地域の教育力を活用した地域と一体となった教育活動の支援を行っている。
- 地元小鹿野高校との連携を図り、数学への興味・関心を高めるとともに地元高校への理解を深めるために、高校数学科の教師による数学特別講座を夏季2回実施している。
- 遠距離の生徒も参加できるように、開催日にはスクールバスを運行し送迎している。



成果

- 参加生徒のアンケート調査では、「参加してよかった91%」「学習内容がわかりやすかった90%」「楽しく学べた89%」であり、概ね良い結果が得られた。
- 本事業に参加して役立った点として、「今まで、学校外で学習する機会がなかったので、新しい体験ができた」「学校の授業でわからない所を丁寧に教えてもらった」「勉強に自信が持てた」等が挙げられた。

基本情報

中学校数	1校
対象学校	1校
実施教室数	1教室
対象学年	第3学年
開催日数 (1教室平均)	37日
参加人数 (1教室あたりの 1日平均)	16人
活動場所	町施設（就業改善センター）
ボランティア数	4人
ボランティアの属性	教員OB 教員志望大学生 元学習塾講師

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

コーディネーター 1名(0名)

神川町・中学生学力アップ教室

活動内容

- 町内中学3年生を対象に9月～2月で水・金曜日の週2回の学習支援を実施している。
- 場所は町内公共施設（就業改善センター）で実施した。
- 学習する内容は、生徒が自ら持参し、自習形式で実施。生徒の進捗状況を確認しつつ、指導者による個別指導を実施した。学校の授業で使用しているワークや自費で購入した問題集等に取り組んでいる。
- 生徒に意向調査を行い、必要に応じて教科ごとの講義指導を実施した。

実施にあたっての工夫

- 開催場所を町の中心にある公共施設に設置することで生徒が通いやすいように配慮した。
- 連絡アプリ（一斉メール配信サービス）を活用し、緊急時の連絡体制の整備を行った。
- 指導者との連絡調整を密に図り、一人一人の状況や成果、課題を共有した。
また、近隣の大学とも連携し、教員志望の大学生を学習支援員として活用した。
- 指導者の専門性を生かした教科ごとの講義指導も実施した。
- 指導者と連携できるよう、教育委員会の指導主事も教室の様子を毎月確認し、指導者と教室運営について協議した。
- 指導者に対して学校の授業で使用している問題集を適宜用意し、より質の高い教材研究ができる環境を整えた。



(学習に取り組む生徒の様子)



(熱意のある講義の様子)

成果

- 参加実施アンケート調査について、「学習への理解が深まったか」「参加させて良かったか」「指導は適切だったか」という質問に対し、いずれも100%の肯定的な回答が得られており、生徒や保護者の満足度は高いと考える。
- 「先生に質問しやすく、集中できる場所だった」「授業形式で教えてもらったことがよかった」「受験が終わっても最後の日程まで参加したい」などの感想があり、参加生徒にとって満足度は高い。
- 参加生徒の保護者からは、指導者が丁寧でわかりやすい指導をしていただいたことへの感謝の言葉をいただいた。

基本情報

中学校数	2校
対象学校	2校
実施教室数	1教室
対象学年	3年生
開催日数 (1教室平均)	58日
参加人数 (1教室あたりの 1日平均)	35人
活動場所	上里町立図書館
ボランティア数	19人
ボランティアの属性	教員OB 大学生

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 1名(1名)
コーディネーター 1名(1名)

中学生学力アップ教室

活動内容

- 上里町立図書館において、町内在住の中学校3年生を対象とした学習支援活動を実施。実施期間は7月から翌年2月までとし、週2～3回、放課後の2時間程度を充てる。
- 主要5教科を中心に、生徒が自ら学習内容を選定し、教材を持参して取り組む。学校の宿題や予習・復習を行い、理解が不十分な箇所については、学習支援員が個別に対応する。

実施にあたっての工夫

- 町の中央に位置する上里町立図書館にて実施することで、生徒が参加しやすい環境を整えた。
- 参加生徒の保護者に対して保護者説明会を実施し、緊急時の連絡方法や実施に際しての注意事項について丁寧に説明を行った。また、学力向上支援専用の携帯電話を購入し、保護者からの連絡手段を一本化した。
- 教室の開催前には必ず学習支援員による打合せを実施し、生徒の様子や指導方法の確認を行った。
- 「自ら学習に取り組む力を育てること」を基本方針とし、生徒が主体的に学習に取り組み、分からない点を自ら質問できる態度を養う支援を行った。また、学習方法を身につけ、「理解できた」という実感を得られるよう努めた。
- 生徒が学習したい教科の教材を持参し、個々のニーズに応じた支援を実施した。
- 4人1組のグループを編成し、生徒同士が教え合う環境を整えることで、学習への一体感を高めた。
- 学習に際しては、机の準備や片付けを生徒自身が積極的に行い、自主性の向上を図った。

成果

- 図書館での実施により、教室以外の時間帯でも自主的に学習する生徒が増加した。
- 事業は11年目を迎え、認知度と有効性が高まり、教員の協力も活発になった。
- 生徒同士で教え合いながら、主体的に学ぶ力が育まれた。

基本情報

中学校数	3校
対象学校	3校
実施教室数	1教室
対象学年	1～3学年
開催日数 (1教室平均)	40日
参加人数 (1教室あたりの 1日平均)	35人
活動場所	寄居町役場会議室
ボランティア数	16人
ボランティアの属性	外部講師

地域学校協働活動推進員等数
 ()は内、学校運営協議会委員数

 地域学校協働活動推進員 39名(22名)
 コーディネーター 2名(0名)

寄居町「より・E土曜塾」

活動内容

- 中学生の学力を向上させ、希望する進路を実現させたいという強い思いから開設している寄居町独自の取組である。
- 年間40回の講座を実施している。
- 内容は、定期テスト対策講座、進路対策講座、英検対策講座、独自の実力テストと充実している。
- 参加者は無料で受講できる。
- 第2回英検へ向けての対策講座は中学3年生を対象に、第3回英検へ向けての対策講座は中学1、2年生を対象にしている。

実施にあたっての工夫

- 令和4年度より、全ての生徒が参加しやすいよう、集合型の授業に加え、家庭でも受講できるオンライン型の授業と、都合のよい時間に視聴できるオンデマンド型の授業を組み合わせたハイブリッド形式で展開している。
- 感染症罹患等により自宅療養中の生徒がオンライン授業で参加したり、部活動や家庭の都合等で参加できなかった生徒がオンデマンド配信を視聴したりと、参加生徒の状況に応じた柔軟な対応をしている。
- 長期休業中にタブレットを持ち帰らせ、オンデマンド授業を視聴しレポートを書かせている学校もあり、家庭学習の充実にも寄与している。
- 参加生徒の募集や、実力テストの後日受験など、町教委と学校とで連携して取り組んでいる。



成果

- 参加した生徒からは「質問するとわかるまで教えてくれたので、成績が上がった。」「楽しいし、よく分かるから続けたい。」「土曜塾のおかげで、志望校の〇〇高校に無事に合格出来た。」、保護者からは「受講生無料の学習支援に、本当に感謝している。」「埼玉県の高校入試についての情報がよくわかり、助かった。」等の声が寄せられた。
- 令和4～6年度とも、受講した生徒の100%が、希望する進路を実現することができた。

基本情報

中学校数	8校
対象学校	8校
実施教室数	6教室
対象学年	1～3学年
開催日数 (1教室平均)	37日
参加人数 (1教室あたりの 1日平均)	34名
活動場所	市内コミュニティセンター等(6ヶ所)
ボランティア数	27名
ボランティアの属性	元教員 大学生

地域学校協働活動推進員等数
 ()は内、学校運営協議会委員数

コーディネーター 6名(1名)

加須まなびTime

活動内容

- 市内公立中学校に通う中学1～3年生を対象に6月～2月の期間に週1回学習支援を実施している。
- 市内コミュニティ・センター等の公共施設6カ所で実施している。
- 参加している生徒は、自身の課題に合わせて学習を進めている。
- 学習時間は1回あたり2時間としており、中学校の授業時間に合わせ、50分を2コマ(途中休憩あり)としている。

実施にあたっての工夫

- 開催場所を各地域に分散配置し、生徒が参加しやすいよう配慮している。
- 年度当初に各会場にて開講式を行い、学校教育課指導主事が約束事や注意事項などを参加者へ指導している。
- 各会場ごとにLINEオープンチャットを作成し、欠席や緊急時の連絡について共有できるようにしている。
- 担当指導主事が各会場のコーディネーターと年3回の推進会議を行い、会場運営にあたっての共通理解を図っている。また、日頃から連絡調整を密に行い、会場運営についての情報共有等を行っている。
- 各会場の大学生サポーターが生徒の状況に応じたきめ細やかな指導を行える体制となっている。



成果

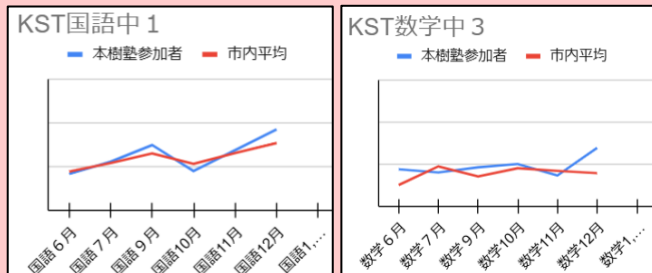
- 参加者からは、「昨年度も参加して、大学生に教えてもらえる良い機会だと思った。この場を有効に使い、学力を高めたい。」「周りが勉強している姿に刺激を受ける。この環境で自分もがんばりたい。」との感想が寄せられている。
- 大学生サポーターは、教職に関心をもつ人材が多く、生徒の質問に熱心に答えており、生徒の学習内容理解に大きく貢献している。

基本情報

中学校数	10校
対象学校	10校
実施教室数	10教室
対象学年	1～3年
開催日数 (1教室平均)	30日
参加人数 (1教室あたりの 1日平均)	25人
活動場所	各中学校教室
ボランティア数	各中学校教室
ボランティアの属性	元教員 教員免許保有者 大学生

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

コーディネーター 8名 (0名)



くき本樹塾

活動内容

- 市内の全中学校を対象とし、5月中旬から2月にかけて、週1回、2時間程度を目安に、各中学校の教室で国語・社会・数学・理科・英語の問題集やコーディネーターの自作ワークシート、タブレット端末を活用し、個別の学習支援を実施した。
- 自主学習を主な活動にしているが、生徒の様子によって、コーディネーターの判断で一斉指導等や受験期の過ごし方に関する指導・助言も適宜実施した。

実施にあたっての工夫

- 各学校に専属のコーディネーターと支援員を配置したことで、支援員と生徒、学校と支援員、支援員同士の信頼関係が構築された。これにより支援員が生徒一人一人の実態に合った学習支援を行えるとともに、学校と情報共有が積極的に図られ、中間・期末テストの範囲を把握した上で効果的な支援に当たることができた。（進路に対する考え方や受験期の過ごし方についての指導や、生徒が苦手としている科目の重点的な指導など、学校ごとの工夫が多く見られた。）
- 実施する曜日や時間を学校ごとに固定しているため、定期的な開催となり、生徒の学習習慣の定着が図られた。
- 多くの学校では、教員に連携・協力いただき、学習支援員をサポートする取組を実施した。この取組を通じて、生徒への支援が充実するとともに、教員にとっては本樹塾の活動状況や生徒の様子を把握することができ、日頃の授業での指導等につなげることができた。
- 学校とコーディネーター、支援員同士の連携を密にすることで、支援員の急な予定体調不良や学校の日程変更が発生した際にも、代員を立てやすく、極力欠員を出さずに、実施することができた。



成果

- 参加生徒の意識調査から、本事業に参加し、学習に関する満足について肯定的な回答した生徒の割合が約97.8%（12月現在）と高い水準であった。
- 埼玉県学力・学習状況調査と同様の性質をもつ、久喜市の学力調査「久喜市ステップアップテスト（KST）」の結果において、本事業参加生徒の学力の伸び（国数英の平均）は、市内平均と比較して、中1は1.5ポイント、中2は0.6ポイント、中3は0.5ポイント上回る結果となった。